

「幼虫、ちっちゃ！(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

小学生の頃、伯母(父の姉)の家に泊まった時、真夜中に天井から「ザザザザー」と音がした。隣に寝ていた従姉を起こして「お姉ちゃん雨だよ」と言うと、「ちがうよ、あれはお蚕様の食事の音よ」と教えてくれた。意味がわからずボーっとしていると、急な階段を上って小屋裏まで連れていってくれた。小屋裏は蚕室(カイコを育てる部屋)になっていた。従姉に手を引かれて真っ暗な蚕室に入ると、カイコが一斉に桑の葉を食べていて、それが雨の音のように聞こえた。



「深谷市郊外のネギ農家」今でも屋敷森と防風垣に覆われた昔ながらの農家が残る。立派な母屋の上階は蚕室として使われていた。(画;ジミー・田中)



写真は孵化して、まだ間もないアゲハの幼虫である。自分の入っていた卵の殻を、わずか10分でほとんど

全部食べてしまった。この様子を見ていた3年生の女の子が、不思議な行動を見せた。幼虫のいるミカンの葉に、しきりと耳を近づけているのだ。

「あれ、何をしているの?」

「幼虫が卵の殻、食べてる音、聞いているの」

「えっ?でも、聞こえるの?」

「聞こえるよ。シ、シ、シ、シ・・・って」



あとから同じ行動をした子どもたちは、「聞こえる」聞こえない」と意見が分かれていた。私は、聞こえるわけがないと思った。しかし、子どもは大人よりも耳が良く、特に周波数の高い音は、大人よりも確実によく聞こえているという。本当に聞こえていたのかも知れない。私は、幼虫が卵の殻を食べる音を、録音してみたいと思った。カタツムリの心臓の音も録音できるのだから、きっとこのかすかな音も録れるに違いない。

さて、なぜ幼虫は殻を食べるのだろうか?私は授業で子どもたちに聞いてみた。

【子どもたちの考え】

「カラに栄養があるから食べるんだと思う」

「葉っぱを食べる練習をしてるんだと思います」

「あかちゃんの幼虫は、まだ目がよく見えないので、葉っぱとまちがえて食べている」

「おかあさんのにおいがするから」

「卵のカラがあると目だって、鳥とかハチにねらわれるので“証拠”を消してる」

実は、この理由をよくわかっていないらしい。卵の殻もタンパク質が主成分なので、「栄養がある」というのは正しいだろう。一説では、卵の殻についている菌を、幼虫が体に取り込む為とも言われている。